

企業の高評価「責任」がカギ

社会貢献 法令順守 環境配慮

証券絡みの不祥事が相次ぐ中、株価だけが測れない企業価値に対する関心が高まっている。社会貢献やコンプライアンス(法令順守)、環境への配慮などを経営に組み込んだ「企業の社会的責任(CSR)」への注目度だ。企業の取り組みを消費者に橋渡しする民間非営利団体(NPO)も登場。CSRを重視した投資も広がりを見せている。(経済部・市川千晴)



地域の小学生親子を招いて、洗剤の汚れを分解する仕組みを実験し意見交換をする試みが続いている＝和歌山市で(花王提供)

名称	愛称	販売会社	純資産残高
日興エコファンド		日興コーディアル証券など	491億円
ぶなの森		損害保険ジャパンなど	179億円
興銀第一ライフエコファンド		第一生命など	62億円
エコ博士		三井住友銀行など	43億円
みどりの翼		三菱東京UFJ銀行など	30億円
あすのはね		カブネットコム証券など	50億円
ダイワSRIファンド		大和証券	165億円
野村グローバルSRI100		野村証券	39億円
グッドカンパニー		住友信託銀行	545億円

※純資産残高は3月末現在

主なSRI投資信託

など。SRI投資の開発も手がける「インテグレーション」は、上場企業約二千六百社のCSRの取り組みをアンケートで調査。この情報をもとに、ダイワSRIファンドなどが発売されている。同社は「SRIの基盤は、企業経営の誠実さと透明性にある」とし、今年には花王をトップに格付けした。花王では、全国の工場で小学生親子を招いた実験を開催しているほか、消費者から寄せられた過

関連投資利回り好調 消費者には貴重情報

●株債にも影響

住友信託銀行は、CSRに関する配当金に相当する分配金が投資額一百万円当たり五千五百円と、国内投資のトップを記録。同社の広報担当者は、「当初は顧客からCSRを重視した投資も広がりを見せている。」

今年三月末までの一年間、Rは企業のきれいごとで、不信感を持たれ、運用利回りの実績が評価される。だが、今では運用利回りだけでなく、法令違反を犯すリスクが低く、消費者の支持を得やすい。企業は持続的な成長が期待できる。こうした投資家の見方が株債の上昇につながり、結果としてSRI投資の運用実績向上に貢献している。

また、「花王がトップ」金融機関に情報提供するのには、専門の調査会社

企業の社会的責任(CSR)が行動や商品などに、社会的公正さや倫理、環境への配慮などを組み込み、株主や従業員、消費者、地域社会といった利害関係者に対して説明責任を果たし、好ましい影響を与え、2003年が開始された。競争力を高めるための経営戦略と位置付けられる企業が増え、CSR報告書を発行している企業は200社を超える。

金融機関では、「グッドカンパニー」のような「CSR型金融商品」ともいえる「SRI(社会的責任投資)投資信託」が広がっている。野村総合研究所の伊吹英子主任コンサルタントは「現在のCSRは、過去に比べて

「コア」が「心」

という投資。今後はより満足度の高い商品設計したい」と意欲を示す。 ●また成長段階 現在、国内のSRI投資は約二千億、残高ペー